

令和7年度 墨田区立第一寺島小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 高橋 誠人

学校教育目標	○進んで学習する子 ○思いやりのある子 ○からだを大切にする子
目指す学校像	○「笑顔と真顔と得意顔」のある学校
目指す児童像	○生き生きと学習をしたり、運動をしたりする児童
目指す教師像	○自分の仕事に自信と責任をもち、自己の能力を向上させようとする教師

<p>○令和7年度 学校経営計画における重点内容</p> <p>【夢と希望の実現に向けて確かな学力の定着と向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種学力調査の結果を学力向上プランに繋げ、課題となっているところを授業に反映させる。 ・校内研究を国語科に設定し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の実現に向けて、研究授業を充実させる。

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価			
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等	
各教科指導等	確かな学力の定着と向上 ①学力調査の結果を授業改善に結び付ける。	①9月中に全ての担任が各種調査結果を基にした学力向上プランを作成し、中間申告で授業改善のための面接を行う。	4	学力向上プラン作成 100%	4	学力プランの授業実施率 100%	4	○墨田区の学力調査を振り返り、全ての学級担任が改善プランを作成することができた。 ○学力向上プランで具体的な教科や領域を指定したため成果指標が100%となった。	○学力調査の結果を見ると、校内研究で扱っている国語の伸びが大きい。教材研究と指導法の開発が学力を向上させることに直結している。	A	A	○公開などでは、子供たちが授業によく集中している。 ○先生方が努力していることがよく分かる。
			3	学力向上プラン作成 90%以上	3	学力プランの授業実施率 90%以上						
			2	学力向上プラン作成 80%以上	2	学力プランの授業実施率 80%以上						
			1	学力向上プラン作成 80%未満	1	学力プランの授業実施率 80%未満						
	授業力の向上【校内研】 ①校内研究を国語科に設定し、学力向上のための、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実に努める。	①年間6回の研究授業と12月に研究発表を行う。	4	教員アンケート 肯定的な回答 90%以上	4	児童アンケート 肯定的な回答80%以上	4	○児童アンケートでは、90%の児童が「授業が楽しい」と回答している。 ○昨年度と比較すると、3ポイント上昇した。	○児童が学習に対して見通しをもったり、主体的に取り組むことができるようになる必要がある。	A	A	○研修が充実していること、校長先生のリーダーシップが発揮されていることがよく分かった。
			3	教員アンケート 肯定的な回答 80%以上	3	児童アンケート 肯定的な回答70%以上						
			2	教員アンケート 肯定的な回答 70%以上	2	児童アンケート 肯定的な回答60%以上						
			1	教員アンケート 肯定的な回答 70%未満	1	児童アンケート 肯定的な回答60%以上						
	授業力の向上【実践】 ①人事考課の活用で、校長・副校長より直接授業について指導を行う。	①当初申告時：算数 中間申告時：体育 最終申告時：専門教科	4	年3回の授業観察と指導 100%	4	児童アンケート 肯定的な回答80%以上	4	○当初申告で算数を扱うことにより、学年内での授業についての話し合いの起点となった。	○0JTで「授業力向上」や「学習規律の確立」を推進することで、より教員の授業力の向上が図られる。	A	A	○AIを頼るのではなく、自分で判断ができる子を育てて欲しい。AIにつかわれない子の育成をお願いする。
			3	年3回の授業観察と指導 90%以上	3	児童アンケート 肯定的な回答70%以上						
			2	年3回の授業観察と指導 80%以上	2	児童アンケート 肯定的な回答60%以上						
			1	年3回の授業観察と指導 80%未満	1	児童アンケート 肯定的な回答60%以上						
生活指導等	いじめの未然防止 全校朝会の校長講話や担任からの授業でいじめは絶対にいけないことを示す。	①いじめの未然防止のために、毎月1回、校長講話でいじめ防止に関する講話を行う ②いじめの未然防止のために、全ての学級で年間3回以上いじめ防止の授業を行う。	4	年間11回の校長講話と年間3回はいじめ防止授業の実施100%	4	「いじめはぜったいにいけないものだ」という問いに対する回答95%以上	4	○全校朝会での校長講話をはじめ、いじめ防止に対する取組が児童のいじめ防止に対する意識の高さに繋がっている。	○軽微ないじめを逃さず、今後も一つ一つ丁寧に対応していくことが課題である。	A	A	○研修が充実していることがよく分かった。いじめが起りにくい状況にもなっているように感じる。
			3	年間11回の校長講話と年間3回はいじめ防止授業の実施80%以上	3	「いじめはぜったいにいけないものだ」という問いに対する回答90%以上						
			2	年間11回の校長講話と年間3回はいじめ防止授業の実施70%以上	2	「いじめはぜったいにいけないものだ」という問いに対する回答80%以上						
			1	年間11回の校長講話と年間3回はいじめ防止授業の実施70%未満	1	「いじめはぜったいにいけないものだ」という問いに対する回答80%未満						
	いじめの迅速な対応 早期発見、早期対応、早期解決のために、児童の実態調査を行ったり、情報共有を行ったりする。	①いじめの早期発見のためのアンケートを年間3回（6月、10月、1月）実施する。 ②週1回、生活指導夕会で、学校内外の様々なトラブルに対して全教員で共有する。	4	年間3回のアンケートと毎週1回の生活指導夕会の実施95%以上	4	アンケート結果の対応率100% 3ヶ月以内の解決95%以上	4	○臨時校内委員会の開催や、いじめ防止のアンケート、教育相談などにより、軽微ないじめを逃さず、迅速に対応できた。	○今後も、いじめ防止の授業、全校朝会での話、いじめ防止アンケート等、様々な方法でいじめ防止に努める。	A	A	○いろいろな特性をもった子が増えてきています。先生方が努力している姿がとてもよく分かりました。今後もしっかりと対応をお願いします。
			3	年間3回のアンケートと毎週1回の生活指導夕会の実施90%以上	3	アンケート結果の対応率100% 3ヶ月以内の解決90%以上						
			2	年間3回のアンケートと毎週1回の生活指導夕会の実施85%以上	2	アンケート結果の対応率100% 3ヶ月以内の解決85%以上						
			1	年間3回のアンケートと毎週1回の生活指導夕会の実施85%未満	1	アンケート結果の対応率100%未満 3ヶ月以内の解決85%未満						
不登校の予防と解決 ①全教職員の共通理解のもと機動的に対応し、担任を支援する。 ②積極的に外部機関との連携を図り、短期解決に向け尽力する。	①2日連続で欠席した場合は、cocooによる連絡があったとしても、原則保護者に連絡をする。 ②1週間欠席が続いた場合は、原則墨田区子育て支援総合センター課やSSW、区教育委員会に連携をし、対応策を共有する。	4	家庭や専門期間との左記の条件の基の連携100%	4	不登校の出現率 学校で5名以内	3	○異学年交流や児童が主体的に行う活動などをできるだけ多く取り入れたことが自立的な児童の育成に繋がった。	○児童主体の活動が展開されるような教育課程の工夫が必要である。	A	A	○世の中は学校にいかなくてもよい風潮があるが、子供の実態に応じて学校に行くことを目標にしてほしい。	
		3	家庭や専門期間との左記の条件の基の連携95%以上	3	不登校の出現率 学校で10名以内							
		2	家庭や専門期間との左記の条件の基の連携90%以上	2	不登校の出現率 学校で15名未満							
		1	家庭や専門期間との左記の条件の基の連携95%未満	1	不登校の出現率 学校で15名以上							

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
学校の管理運営	教師の自己研鑽 自分の仕事に自信と責任をもち、自己の能力を向上させようとする教師の育成	①年間10本以上公開する授業を行う。 ②年間5本以上、校内外で授業観察を行う。	4	年間5本以上、校内外で授業観察を行う100%	4	年間10本以上公開する授業を行う95%以上	○校内研究授業、年3回の授業観察、交流授業、区小研の研究授業等により、教師の指導力の向上に繋がった。	○研究授業をするための準備の時間や、実施した後の協議会の時間を捻出することが課題である。	A	A	○教職員の研究や研修のおかげで、自信をもって笑顔で子供たちに接することができるのだと思う。
			3	年間5本以上、校内外で授業観察を行う95%以上	3	年間10本以上公開する授業を行う90%以上					
			2	年間5本以上、校内外で授業観察を行う90%以上	2	年間10本以上公開する授業を行う85%以上					
			1	年間5本以上、校内外で授業観察を行う90%以下	1	年間10本以上公開する授業を行う85%未満					
学校の管理運営	働き方改革の推進 教職員のライフワークバランスの支援	①年次有給休暇の取得を奨励する。 ②各種特別休暇の周知と取得促進をする。	4	平均年次有給休暇取得日数 17.5日以上	4	月あたりの残業時間、45時間以内90%以上	○会議の精選、事務整理日の確保等、働き方改革の推進を行った。一方で、年度当初の年休日数が少ない初任者等若手教員の割合が増加し、取得率が下がったことが考えられる。	○「働き方改革」を進めながら、教員の「働きがい」も大切にしていく。	A	A	○教員の働き方がよく分かった。先生たちがゆとりをもって働けていることがわかる。
			3	平均年次有給休暇取得日数 15日以上	3	月あたりの残業時間、45時間以内80%以上					
			2	平均年次有給休暇取得日数 10日以上	2	月あたりの残業時間、45時間以内70%以上					
			1	平均年次有給休暇取得日数 10日未満	1	月あたりの残業時間、45時間以内70%未満					
学校の管理運営	服務事故未然防止の取組 ①服務事故防止研修を行う。 ②副校長から、日々の業務に関わる注意喚起を行う。	①校長から、毎月「使命を全うする」の各項目ごとに服務事故防止研修を行う。 ②副校長から、適宜(月に1回～2回程度)個人情報漏洩や個人情報管理等、日々の業務に関わる注意喚起を行う。	4	年間12回の研修と毎月1回以上の注意喚起 100%	4	服務事故発件数 0件	○自分事として年間12回の服務研修を行うことができた。 ○「使命を全うする」が刷新されたことについて重く受け止め、新しい事項について即座に研修を行った。	○繁忙期の個人情報紛失など、業務量と服務事故との関連を基に、計画的に業務を行ったり、服務事故が起りやすい時期に研修や声かけを随時行っていく。	A	A	○先生たちが自信をもって授業をすることができたのは、学校として研修がしっかりと行えているからと思える。
			3	年間12回の研修と毎月1回以上の注意喚起 95%以上	3						
			2	年間12回の研修と毎月1回以上の注意喚起 90%以上	2						
			1	年間12回の研修と毎月1回以上の注意喚起 90%未満	1	服務事故発件数1件					
家庭・地域連携	開かれた学校づくり ①学校公開や学校保健委員会・道徳授業地区公開講座、運動会や音楽会等の行事に保護者が参観をする。	①保護者の参加率をあげるために、事前周知や活動内容の質の向上に努める。	4	学校公開や学校行事への保護者の参加率95%以上	4	道徳授業地区公開講座及び学校保健委員会の保護者の参加50人以上	○開かれた教育課程の実施のために、道徳授業地区公開講座を開き、51名の参加があった。 ○学校公開や学芸会・運動会等で多くの保護者や地域の方が参加があった。	○今後も地域に開かれた学校であるために、様々な活動を公開したり、HPに更新したり、手紙やメール等で配信していく必要がある。	A	A	○公開などで学校にいくと、子供たちから挨拶をしてくる姿が多くなった。 ○地域の子供会と登校班は関りがある。登校班の仕組みを教えて欲しい。
			3	学校公開や学校行事への保護者の参加率90%以上	3	道徳授業地区公開講座及び学校保健委員会の保護者の参加30人以上					
			2	学校公開や学校行事への保護者の参加率80%以上	2	道徳授業地区公開講座及び学校保健委員会の保護者の参加10人以上					
			1	学校公開や学校行事への保護者の参加率80%未満	1	道徳授業地区公開講座及び学校保健委員会の保護者の参加10人以下					
家庭・地域連携	ホームページの充実 学校行事の様子や活動の様子をHPを通じて保護者や地域に伝える。	①入学式、卒業式、運動会、学芸会など、学校の大きな行事の様子をHPに掲載する。 ②日常の学習の様子を学年ごとに、週1回程度更新をする。	4	毎週1回 ホームページを更新する。	4	年間40回以上更新する。	○年間で50回以上更新することができた。 ○目標は達成できたが、昨年度以上にHPを介して学校の様子を伝えることについては課題が残った。	○現在、HP担当を中心に、毎月の行事について、担任や行事担当が原稿を作成している。HP担当を増やし、タイムリーな情報を掲載する必要がある。	B	A	○ホームページで様子をみれることがありがたいです。今後も続けていってください。
			3	2週間に1回、HPを更新する。	3	年間30回以上更新する。					
			2	3週間に1回、HPを更新する。	2	年間20回以上更新する					
			1	1ヶ月に1回、HPを更新する。	1	年間10回以上更新する。					
家庭・地域連携	郷土文化愛を育てる ①墨田郷土資料館や地域の図書館、すみだ北斎美術館を活用した学習を展開する。	①資料館を利用した歴史の学習や、図書館と連携した学習、調べ方コンクールへの応募など、全ての児童が地域の学習関連機関を活用した学習を行う。	4	地域と関連した学習を行う100%	4	地域と関連した学習に肯定的な回答をする児童が95%以上	○低学年は、自然探しやお店屋さん体験、中学年はスーパー見学や北斎美術館の見学、高学年は地域防災訓練等で、地域の学習を行うことができた。	○総合的な学習の時間や社会科の時間で、地域の学習を年間計画に位置付ける必要がある。	A	A	○地域が昔からのものが多く残っており、地域を生かした学習を続けていって欲しい。
			3	地域と関連した学習を行う86%以上	3	地域と関連した学習に肯定的な回答をする児童が90%以上					
			2	地域と関連した学習を行う72%以上	2	地域と関連した学習に肯定的な回答をする児童が80%以上					
			1	地域と関連した学習を行う72%以下	1	地域と関連した学習に肯定的な回答をする児童が80%以下					

○令和7年度 学校経営報告のまとめ(総括)

- ・学力向上を目指した授業力向上について
校内研究・人事考課制度を活用した自己申告時の授業等で、教員の授業に対する意識の向上及び授業力の向上が図られた。
また、来年度の学力調査の結果を基に再度分析する必要があるが、その結果として子供たちの学力も、国語を中心に大きく向上している。
- ・いじめ・不登校等の生活指導上の対応について
学年会・生活指導部・生活指導夕会・校内委員会・生活指導全体会等、日々のトラブルについて組織的に、迅速に対応することができている。
また、重要案件については、年間で20回以上、臨時校内委員会を開催し対応することができた。